

【研究紹介】

合評会：
ニコ・ベズニエ，スーザン・ブラウネル，トーマス・F・カーター 著，
川島浩平，石井昌幸，窪田暁，松岡秀明 訳
『スポーツ人類学—グローバルゼーションと身体—』 共和国，2020年

石井 隆憲¹⁾，川島 浩平²⁾，石井 昌幸²⁾，窪田 暁³⁾，松岡 秀明⁴⁾，松浪 稔⁵⁾，
松浪登久馬¹⁾，田簀健太郎⁶⁾，大沼 義彦⁷⁾，永木 耕介⁸⁾，ニコ・ベズニエ⁹⁾，尾川 翔大¹⁰⁾

¹⁾ 日本体育大学体育スポーツ科学系

²⁾ 早稲田大学

³⁾ 奈良県立大学

⁴⁾ 前・大阪大学

⁵⁾ 東海大学

⁶⁾ 流通経済大学

⁷⁾ 日本女子大学

⁸⁾ 法政大学

⁹⁾ アムステルダム大学

¹⁰⁾ 日本体育大学スポーツ危機管理研究所

キーワード：

スポーツ人類学，身体，グローバルゼーション

合評会概要

本稿は、2021年1月9日の「第43回スポーツ文化研究会」で企画された『スポーツ人類学—グローバルゼーションと身体—』の合評会の報告である。本書は、2020年に川島浩平氏、石井昌幸氏、窪田暁氏、松岡秀明氏により上記のタイトルで翻訳書として刊行された。原書の*The Anthropology of Sport: Bodies, Borders, Biopolitics*は、2018年にニコ・ベズニエ氏、スーザン・ブラウネル氏、トーマス・F・カーター氏によって著された。

合評会では、訳者の川島浩平氏、石井昌幸氏、窪田暁氏、松岡秀明氏をお迎えし、評者には松浪稔氏、松浪登久馬氏、田簀健太郎氏、大沼義彦氏、永木耕介氏をお願いした。さらに、合評会には川島氏のお力添えにより原著者のニコ・ベズニエ氏にもご参加いただいた。

合評会を通して改めて浮かび上がってきたことは、日本のスポーツ人類学の特徴である。こうした意味では、この合評会の記録は、英語圏のスポーツ人類学と日本のスポーツ人類学の対話でもある。

*合評会を採録したものは「日体大リポジトリ」に掲載されている。<http://id.nii.ac.jp/1444/00001533/>

文献

・Niko Besnier, Susan Brownell, and Thomas F. Carter (2018) *The Anthropology of Sport: Bodies, Borders, Biopolitics*. University of California Press: Oakland, California.

・ニコ・ベズニエ，スーザン・ブラウネル，トーマス・F・カーター著：川島浩平，石井昌幸，窪田暁，松岡秀明訳（2020）『スポーツ人類学—グローバルゼーションと身体—』。共和国：東京。